

会津若松市の現況

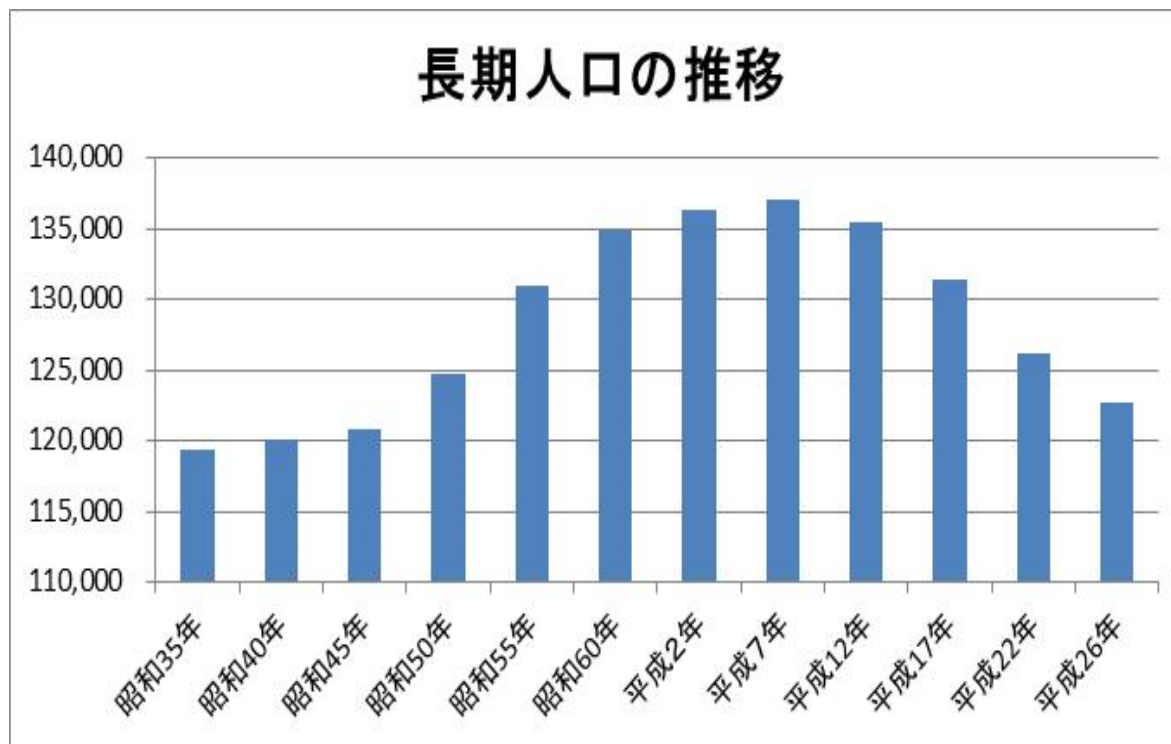
平成27年6月17日

会津若松市の現状

1. 長期人口の推移
2. 人口の社会増減と自然増減
3. 人口動向
4. 会津若松都市経済圏
5. 産業動向
 - 製造業
 - 地場産業
 - 商業
 - 観光
6. 土地利用

1. 長期人口の推移

- 昭和35年の会津若松市の人口は12万人弱でした(昭和35年国勢調査人口)。
- その後、平成7年の13.7万人まで増加した後、減少しています。



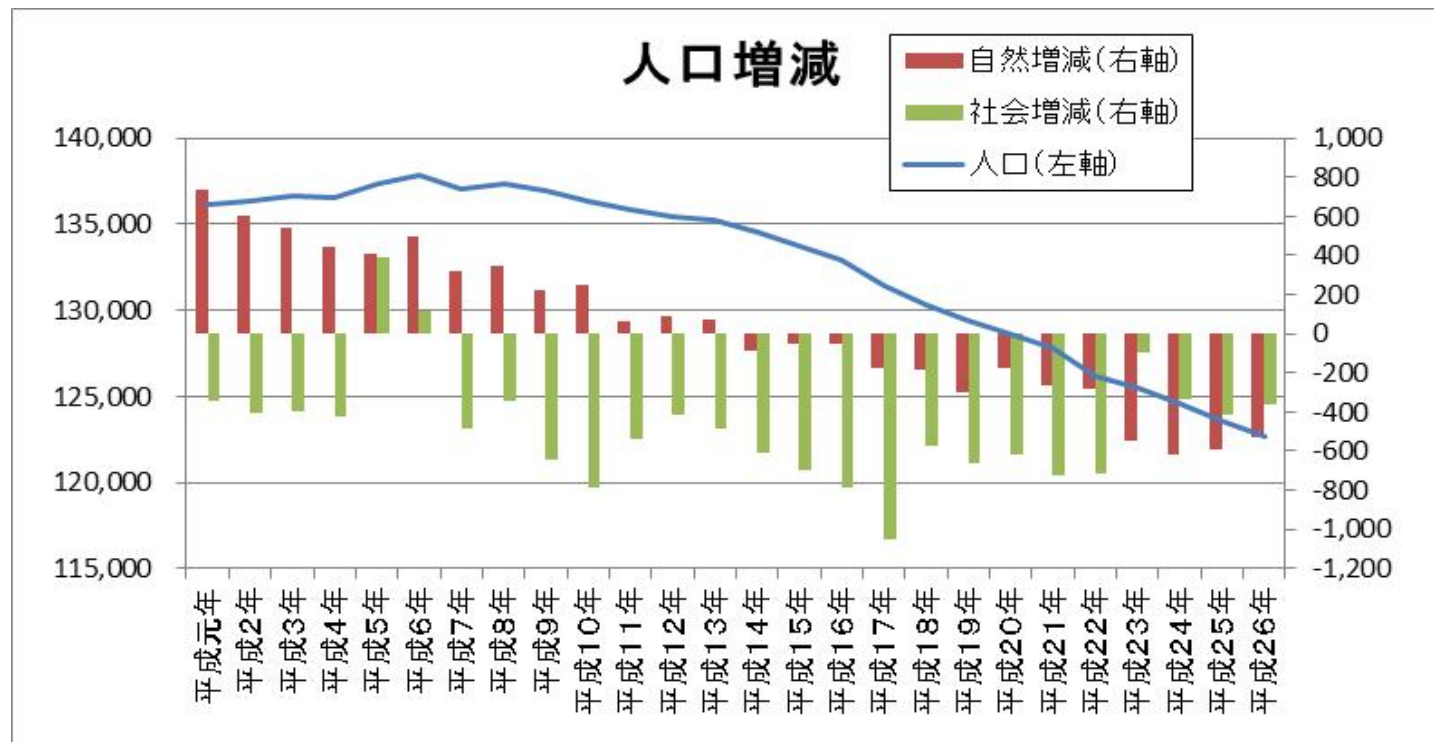
(出所)国勢調査

* 北会津村、河東町分を含む

* 平成26年数値のみ県常住人口調査

2. 人口の社会増減と自然増減

- 平成6年まで、自然増が社会減を上回る形で人口が増加してきました。
- 平成13年までは社会減が自然増を上回り人口が減少しています。
- 平成14年以降は、自然減と社会減で人口が減少しています。
- 平成25年の社会減を見ると、県外への転出が多くなっています。



(参考)平成25年の社会増減

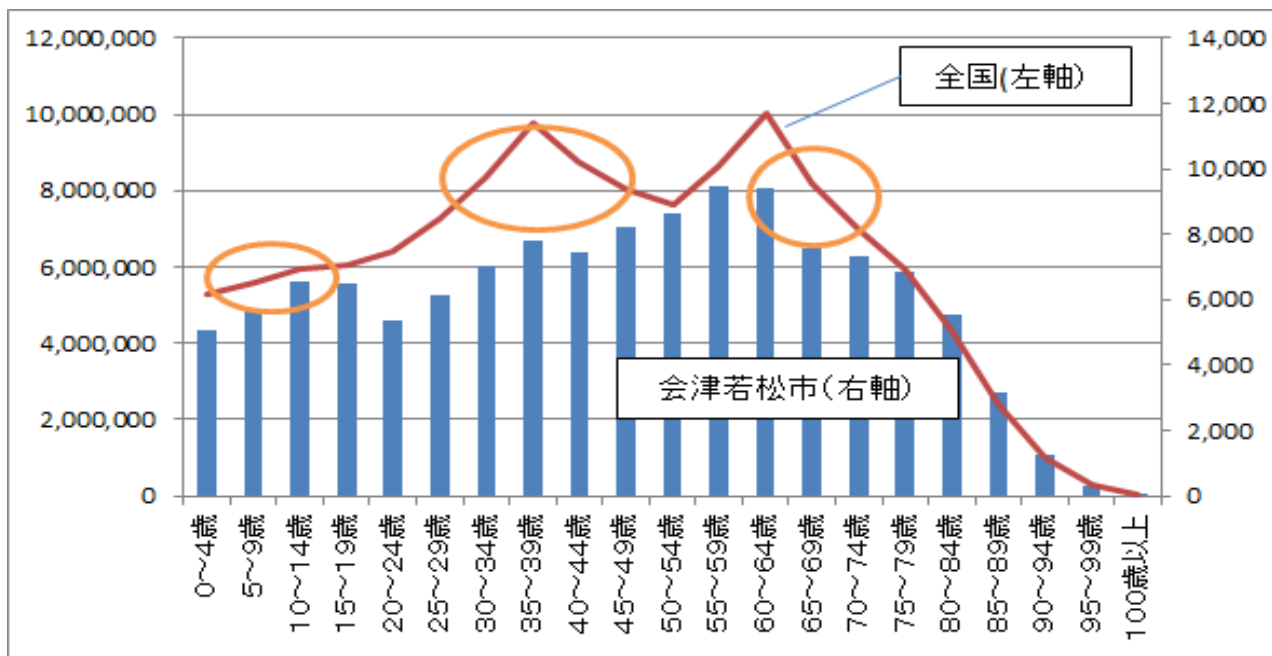
	転入	転出	増減
県内	1,877	1,864	13
県外	1,798	2,140	-342
外国等	152	221	-69
計	3,827	4,225	-398



(出所)国勢調査及び県住人口調査

3. 人口動向

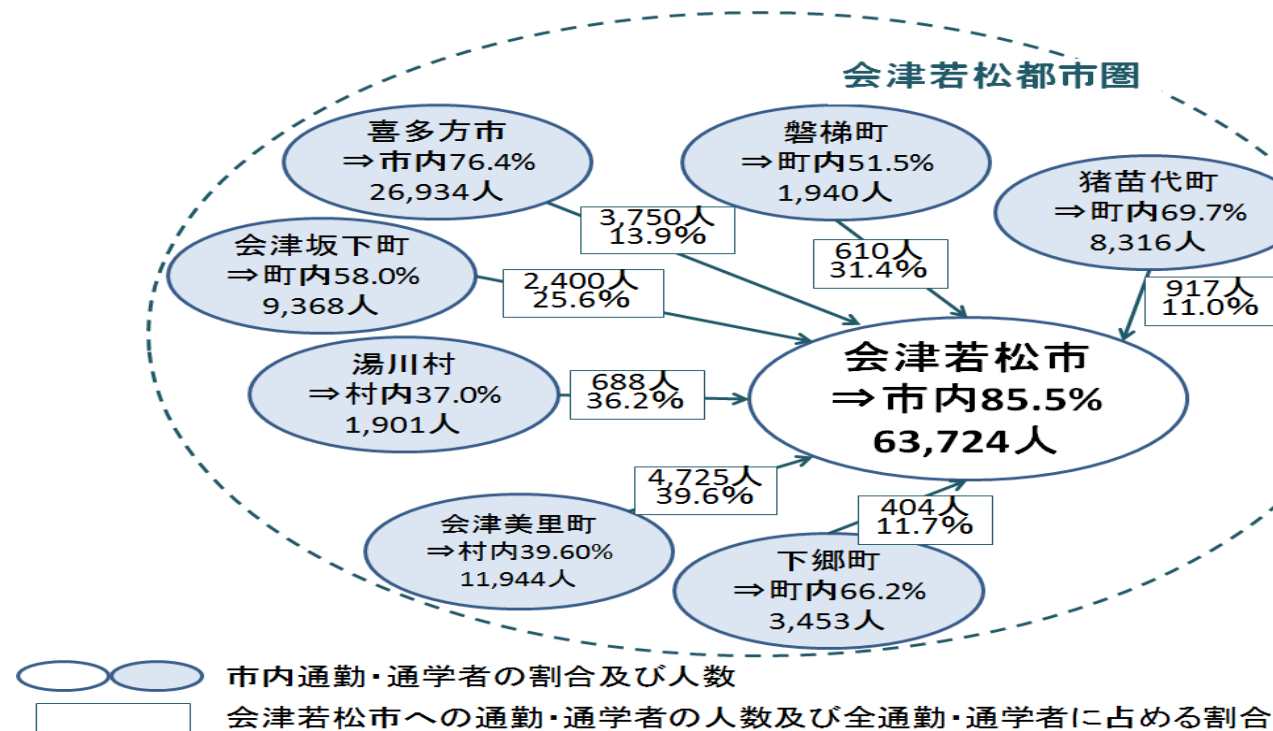
- 会津若松市の人口は122千人(平成26年10月1日現在)。平成7年頃をピークに減少しており、ピーク時よりも約10%減少しています。
- 高齢化率は、平成26年時点で27.7%であるなど、少子高齢化の進展に伴う自然減に加え、近年は社会減が続いています。
- 生産年齢人口(15~64歳)の構成比のピークは昭和45年の68.3%であり、平成26年には6割を切っています。
- 年齢構成を全国平均と比較してみると、団塊世代、団塊Jr世代、10歳以下の各年代で少なくなっています。



(出所)平成22年国勢調査

4. 会津若松都市圏

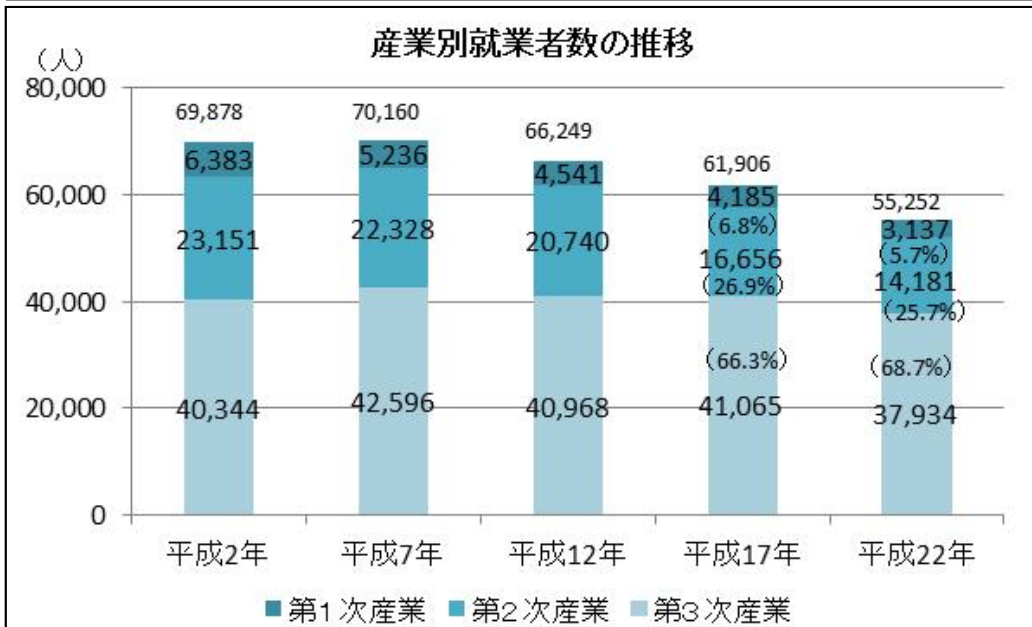
- 10%の通勤・通学圏を1つの都市圏としてみた場合、会津若松市を中心と市とした2市5町1村の都市圏が形成され、その人口は約20万人です。
- 平成17年から平成27年までの10年間で、会津若松都市圏の人口は約10%減少したが、会津若松市の人口減少は7.7%であり、周辺部の減少率12.9%よりも低く、若干のダム効果を発揮しています。



(出所) 平成22年国勢調査

5. 産業動向

- 国勢調査によると、会津若松市の就業者数は、平成7年の70千人から減少傾向にあり、平成22年には2割以上少ない55千人にとどまっています。
- 産業別の構成比をみると、かつては、第二次産業の割合が3割を超えていたが、平成22年の構成比は、第一次産業5.7%、第二次産業25.7%、第三次産業68.7%となっています。
- これを全国、福島県と比べると、第二次産業の割合はほぼ全国並みで県平均より低い。第三次産業については、宿泊・飲食、医療・福祉・卸売・小売の割合が、県平均、全国より高くなっています。



○業種別就業(構成比) (単位:%)

	全国	福島県	会津若松市
第一次産業	4.2	7.9	5.7
うち農業	3.8	7.4	5.5
第二次産業	25.2	30.1	25.7
うち製造業	17.1	20.8	17.5
第三次産業	70.6	62.0	68.7
うち卸売業、小売業	17.5	15.7	17.7
うち宿泊業、飲食サービス業	6.1	5.6	7.7
うち医療、福祉	10.9	10.6	12.5

(出所)平成22年国勢調査(分類不明除く)

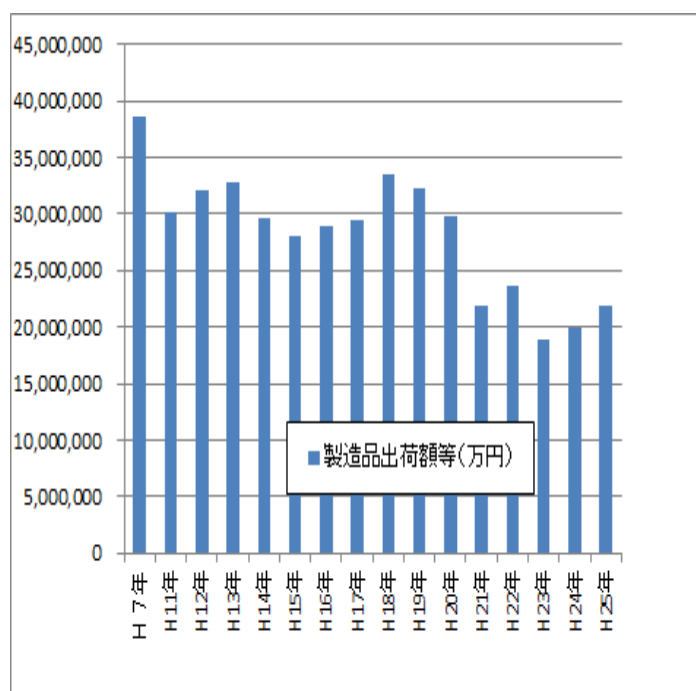
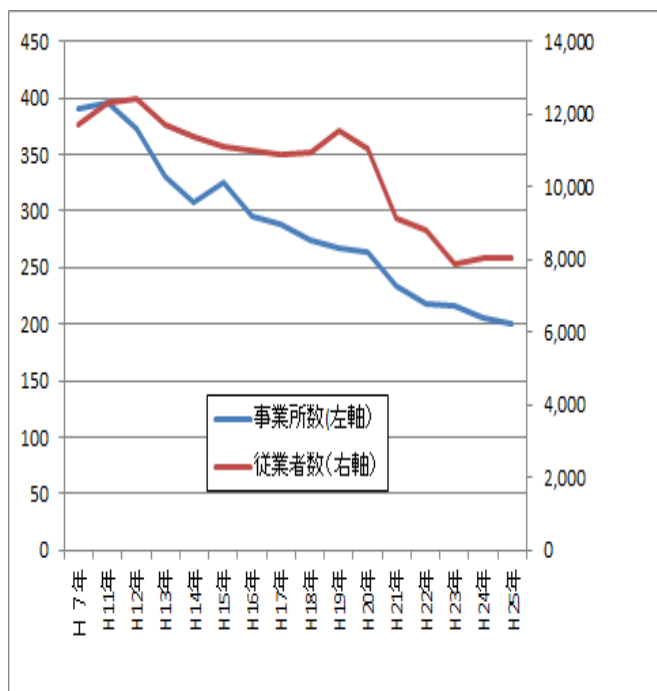
(注)四捨五入の関係で合計は一致しない



(出所)国勢調査

5. 産業動向－製造業

- 平成25年の製造業は、事業所数200ヶ所、従業者数8千人、製造品出荷額等2,180億円となっています。これは、平成7年の出荷額がピークの頃(3,867億円)と比較すると、事業所数は51%、従業者数は69%、出荷額は56%の水準となっています。
- 業種別で見ると、出荷額で多いのは、非鉄金属26.4%、業務用機械22.4%、電子部品21.2%、食料品6.4%などとなっています。
- また、会津塗等の伝統工芸が盛んな地域でしたが、近年は衰退が著しくなっています。



平成25年の製造業の比較

		会津若松市	福島県	全国
事業所数	所	200	3,832	208,029
従業者数	人	8,065	150,818	7,402,984
製造品出荷額等	百万円	218,041	4,762,508	292,092,130
事業所当出荷額	百万円/所	1,090.2	1,242.8	1,404.1
従業者当出荷額	百万円/人	27.0	31.6	39.5

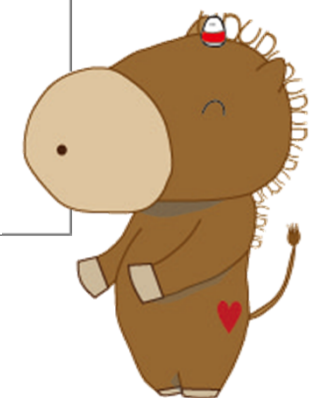
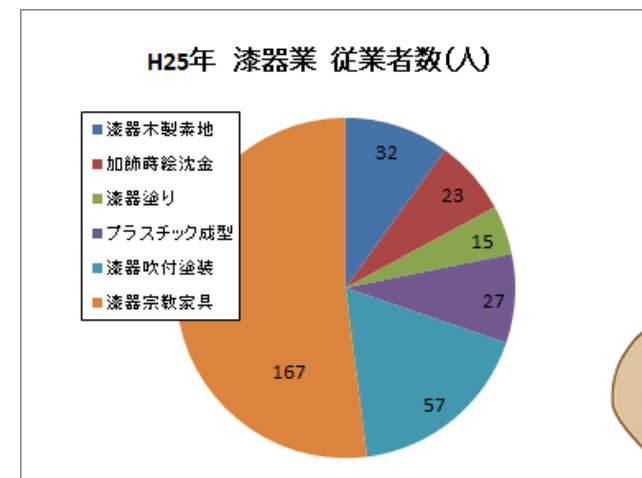
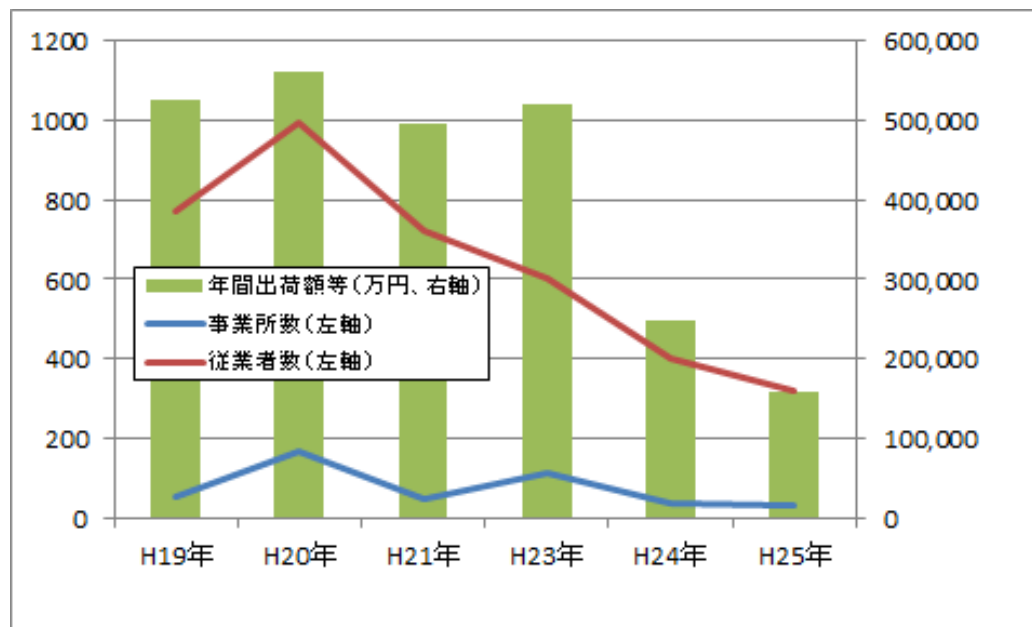
(出所)工業統計表(平成25年)

(出所)工業統計表



5. 産業動向－地場産業

- 会津若松市の地場産業は漆器業と酒造業です。
- 漆器業は、平成25年で事業所数32(法人23、個人9)、従業者数321人、年間出荷額約16億円の集積があります。
- 漆器業は、近年の衰退が著しく、平成19年からの6年間で、従業者数は半分以下、年間出荷額は3分の1以下に減少しています。
- 酒造業は、事業所数7(法人6、個人1)、従業者数113人、年間出荷額約14億円となっており、横ばい傾向にあります。



5. 産業動向－商業

- 平成23年の商業は、卸売業474、小売業1,339、計1,813事業所、従業者数11,724人（卸売業3,256人、小売業8,466人）となっています。
- 卸小売業とも、平成9～11年をピークに、事業所数、従業者数、年間販売額の減少が続いています。
- 小売業について、事業所あたりと、売り場面積あたりの販売額などの販売効率を見ると、福島市などの県内主要都市に及ばないだけでなく、県の平均にも届いていないことがわかります。

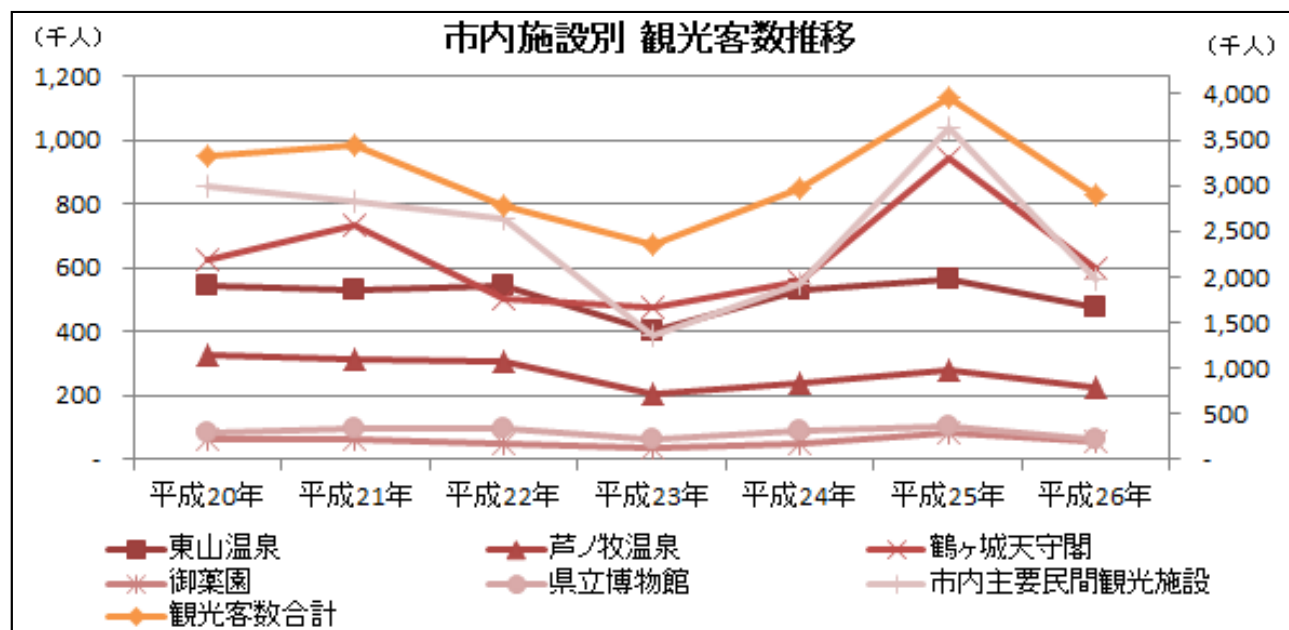
小売業	事業所数	年間販売額(百万円)	売り場面積(m ²)	売場効率 (百万円/ m ²)	1事業所 あたり販 売額(百 万円/所)
福島県	14,303	1,650,182	2,323,262	0.71	115.4
会津若松市	1,018	124,706	192,119	0.65	122.5
福島市	1,980	267,920	351,326	0.76	135.3
郡山市	2,139	340,623	456,765	0.75	159.2
いわき市	2,217	301,740	361,800	0.83	136.1

(出所)平成24年経済センサス



5. 産業動向－観光

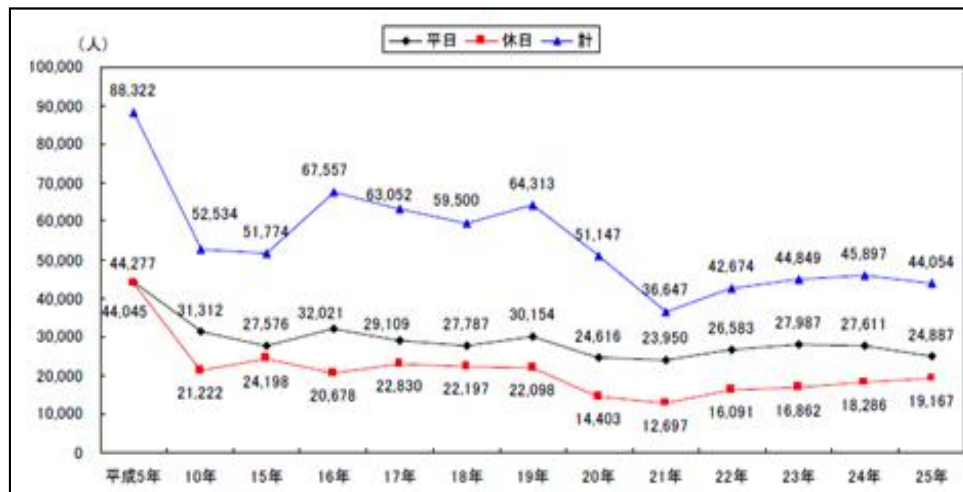
- 平成26年に会津若松市を訪れた観光客の総数は、2,895千人と前年よりも、1,064千人の減少(対前年比73.1%)となりました。これは、平成25年は大河ドラマ「八重の桜」放送の効果により観光客が一時的に増加したことによる反動があったものと考えられます。
- 平成25年の大河ドラマ効果についても、鶴ヶ城を訪れる人が増加したものの、他へ波及が少なかった点、鶴ヶ城を訪れた人に会津の魅力を伝えきれていない点が指摘できます。



6. 土地利用

- 会津若松市域の大部分を森林・圃場が占めていますが、鶴ヶ城を中心として、中心市街地が形成されています。
- DID地区（人口集中地区）の推移をみると、面積が拡大している一方で、人口が減少しており、中心市街地のスプロール化が見て取れます。
- 一方、中心市街地の歩行者通行量は、近年、増加傾向にあり、中心市街地対策の取組が奏功しているものと考えられます。

中心市街地の歩行者通行量の推移



(出所) 第2期会津若松市中心市街地活性化基本計画

